

Title	2001年度三田社会学会大会 シンポジウム「社会学理論と他者性」：記録
Sub Title	
Author	
Publisher	三田社会学会
Publication year	2002
Jtitle	三田社会学 (Mita journal of sociology). No.7 (2002.) ,p.4-
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	特集: 「社会学理論と他者性」
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA11358103-20020000-0004

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2001年度三田社会学会大会

シンポジウム「社会学理論と他者性」：記録

日時 2001年7月14日(土) 14時40分～18時00分

場所 慶應義塾大学 三田キャンパス 大学院棟 313番教室

司会 鈴木 智之 (法政大学)

報告者 吉澤 夏子 (日本女子大学)

鄭 暎惠 (大妻女子大学)

浜 日出夫 (慶應義塾大学)

討論者 宮坂 敬造 (慶應義塾大学)

菅野 博史 (帝京大学)

趣旨 (大会プログラムより)

社会学は、特権的な場所に立って社会的現実の全体像を描出しようという信憑を失ってしまった。社会学者は、どのような方法論上の立場に立つにせよ、自らの語る社会が限定的な視点から限定的な形で構築された現実であることを自覚的に引き受けざるをえない。この時あらためて浮上してくるのは、社会学的な語りがその外部に取り残す(あるいは「外部」として構築する)現実、あるいは社会学的に語られた現実の外に立つ他者との関係をどのように自覚し、これを自らの理論や方法のうちにかなる形で取り込んでいくのかという問題である。本シンポジウムでは、「他者」との関わりにおいて要求されるこうした社会学の方法論的自省の可能性に焦点をおいて、3人の報告者からそれぞれの研究課題に即した問題提起をしていただき、これをめぐって討論を進めていく。多数の方の積極的な参加を期待したい。